

社会福祉法人 鶴田町社会福祉協議会



鶴田社協
イメージキャラクター
たねまきグンファミリー

ふれあいひろば

お知らせ版

福祉教育インストラクター養成研修会開催のお知らせ

第5回目となる福祉教育インストラクター養成研修会を次のとおり開催します。インストラクターとして町の子ども達と共に、福祉について理解を深めてみませんか。皆様のご参加をお待ちしております。参加したインストラクターの声…「福祉」と聞くと感じていましたが、子どもたちを通して、住みやすい町を考えるきっかけになりました。



- ◆日時 令和3年5月7日(金) 9時～12時
- ◆場所 保健福祉センター「鶴遊館」
- ◆受講料 無料
- ◆申込期日 令和3年4月23日(金)まで
- ◆研修内容
 - ・オリエンテーション
 - ・講義「高齢者の理解について」
 - ・講義「車いす操作と歩行介助の指導方法について」
 - ・実技「福祉教育講座と運営手順と留意事項について」
- ◆応募内容
 - ・地域福祉やボランティア活動に関心がある方。
 - ・高校生以上で、性別や職業は問いません。
- ◆研修会終了後の活動内容
 - ・町の小・中学校、高等学校で実施する「高齢者疑似体験」、「車いす体験」の講座にインストラクターとして活動します。
- ◆ご協力いただいた方には、謝礼をお支払いします。
- ◆お問い合わせ先 鶴田町社会福祉協議会 地域福祉課まで



高齢者疑似体験講座の様子



車いす体験講座の様子



養成研修会の様子

夢を応援基金 ひとり親家庭支援奨学金制度 募集案内

ひとり親家庭のお子さんが「進学したい」との希望を持ちながら、経済的な理由により夢をあきらめなくて済むよう、「夢を応援基金」として全国母子寡婦福祉団体協議会(以下、全母子協)とローソングループが力を合わせ、給付型奨学金で生徒さんを応援します。

◆奨学金 月額3万円(返還不要・他奨学金併用可)

◆募集人数 全国400名

◆対象学年 中学3年生、高等学校(1～3年生)、高等専門学校(1～3年生)等に在籍する生徒(2021年4月現在)

◆応募詳細

応募に際しまして、応募資格、申請書類等の提出がごさいます。詳細は全母連ホームページ、または鶴田社協ホームページをご覧ください。どうか、鶴田社協鶴田町母子寡婦福祉会までお問い合わせ下さい。

◆申請締め切り

4月26日(月) 必着

◆お問い合わせ先

鶴田町社会福祉協議会内
鶴田町母子寡婦福祉会 担当：神
電話22-3394

発行

〒038-3503
○編集と発行
○印刷

青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字沖津193
鶴田町社会福祉協議会 TEL.22-3394 FAX.22-6322
HPアドレス：<http://tsuruta-syakyo.or.jp/>
有限会社 アート印刷



この広報は、赤い羽根共同募金の配分金によって発行しています。

福祉を支える人々

1月25日(月)、つるた乳幼児園の福澤園長といちのへれいじさん(右)、あさりいちかさん(左)が訪問され、クリスマス募金として、ご寄付をいただきました。町のために役立てます。ありがとうございます。



善意の灯 (令和3年1月14日~3月15日:敬称略)

一般寄付(金銭)

小野 恭逸 ¥200,000 つるた乳幼児園 ¥30,569
佐々木てり ¥70,000

一般寄付(物品)

ハイコンポーネッツ青森株式会社 匿名
車いす2台・歩行器2台 84円切手50枚

◆お詫びと訂正◆

1月29日号(No.348)の広報2ページ「令和2年度福祉関係表彰者」の欄に誤りがありましたので、お詫びを申し上げますとともに、左記のとおり訂正させていただきます。

◆顕彰

【ほのぼの交流協力員】
(誤)鷹ノ尾 工藤 節子
(正)山 道 工藤 節子



2月5日(金)、ハイコンポーネッツ青森株式会社から車いす2台と歩行器2台が寄贈されました。本会では平成25年から贈呈を受けており、今回で9回目となりました。大切に使用させていただきます。ありがとうございます。

生活困窮者自立相談窓口のご案内

あなたの生活の不安や心配ご相談ください

「お金が無くてこれからの生活が心配」
「色々悩みごとがあるけれど、どこに相談していいかわからない」



「仕事に就きたいけど、どうしたらいいかわからない」
「障がいがあるけど自立したい」
「引きこもり生活から抜け出したい」

◎このように様々な理由により生活にお困りの皆さん。1人で悩まず「西北地域自立相談窓口」にご相談下さい。あなたと一緒に考え、あなたに寄り添いながらサポートいたします。どなたでもお気軽にご相談ください。(ご相談は無料です)

- 相談受付 月曜～金曜 午前9時～午後5時まで(土・日・祝日・年末年始を除く)
- 相談場所 西北地域自立相談窓口(鶴田町鶴田沖津193) 鶴田町社会福祉協議会内

(対象地域: 鱒ヶ沢町・深浦町・鶴田町・中泊町)

相談専用フリーダイヤル(青森県社協) ※通話無料

☎ 017-721-1363

0800-800-7114 (FAX兼用)

つばやき

見えぬ鬼

昨年から「鬼滅の刃」のマンガが超人気である。私は読んではいないが、孫が買って読み、主題歌もよく歌っている。

鬼と言えば、年に一度の節分に豆をまき、赤鬼や青鬼を追い払う。

近くの弘前市鬼沢には、鬼神社もある。

この際、鬼とは何ぞやと思い、鬼をネットで検索してみたところ、京都市福知山市大江町に日本の鬼の交流博物館があることを知った。又この博物館に隣接して鬼文化研究所もあるという。

能では、大江山に住む鬼の酒呑童子を、源頼光らが退治する「大江山」という曲がある。この物語の由来で博物館があるのだなと合点した。

さて、鬼と言えば、寅皮のパンツをはき、角があり牙をむき金棒を持っている姿をイメージする。しかし、本来の鬼はたやすく言い表しがたい存在である。

「オニ」は「オヌ(隠)」が転じた言葉とされている。これは姿が見えないことを表す。闇に隠れて得体の知れない存在であることが伝わってくる。

姿が見えない新型コロナウイルス(電子顕微鏡では見えるが)も、現代の「オニ」かもしれない。日本でも、漸く、ワクチン接種がはじまった。コロナ収束のため、科学的知見を最大限活用し、対策をまだまだ緩めないようにしたいものです。オニを倒すには「全集中の呼吸」が必要だ。(澁谷 信一)